

令和5年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版) 宮城県教育委員会

1. 背景・目的



-
- ・入院中の高校生の様子がわからない
 - ・病院とのやり取りに対する不安
 - ・遠隔教育はどうやつたらいい?

・病気や入院によるショック、落ち込み

・治療や入院生活に対する不安

・学校はどうなるの?



-
- ・勉強が遅れないかどうか心配…
 - ・友達は?部活は??
 - ・ちゃんと学校に戻れるの?
 - ・みんなと一緒に進級したい

課題

・学校現場は入院中の高校生の生活がイメージできない。

・生徒には「学習を続けたい」という意思があり、学校（教員）には「生徒を支えたい」という意思があるても、どうすればいいのかがわからない。

・従来の「教材等を用意して届ける→定期的に回収して添削」の繰り返しは学校側の負担が大きく、生徒の学習意欲を保つのも難しい。

医教連携コーディネーター (医教連携Co)

- ・学校と病院の橋渡し
- ・学校へ遠隔学習支援のアドバイス
- ・入院生徒に関する相談



長期入院しても
→学習を続けられる!
→学校（社会）とのつながりを保てる!

高校教育課担当

- ・医教連携Coとともに病院へ事業説明
- ・遠隔教育機器の整備、拡充
- ・ICT機器活用に関するアドバイス
- ・単位の履修、修得に係る相談

令和5年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版) 宮城県教育委員会

1. 背景・目的

目的

・医教連携コーディネーターを活用し、医療機関と高等学校の連携体制を構築し、病気療養中の生徒に対する学習支援への学校側的心理的なハードルを下げる。



速やかな支援開始

・ICTを活用した遠隔授業を実施するための環境、機器の整備と充実に努めるとともに、適切な活用の方法について学校へ助言を行う。



生徒の状況に合わせたICT活用

・同時双方向型及びオンデマンド型授業による学習支援の事例を収集及び研究して情報を発信し、医療機関や学校への理解啓発を図る。



すべての生徒へ支援を

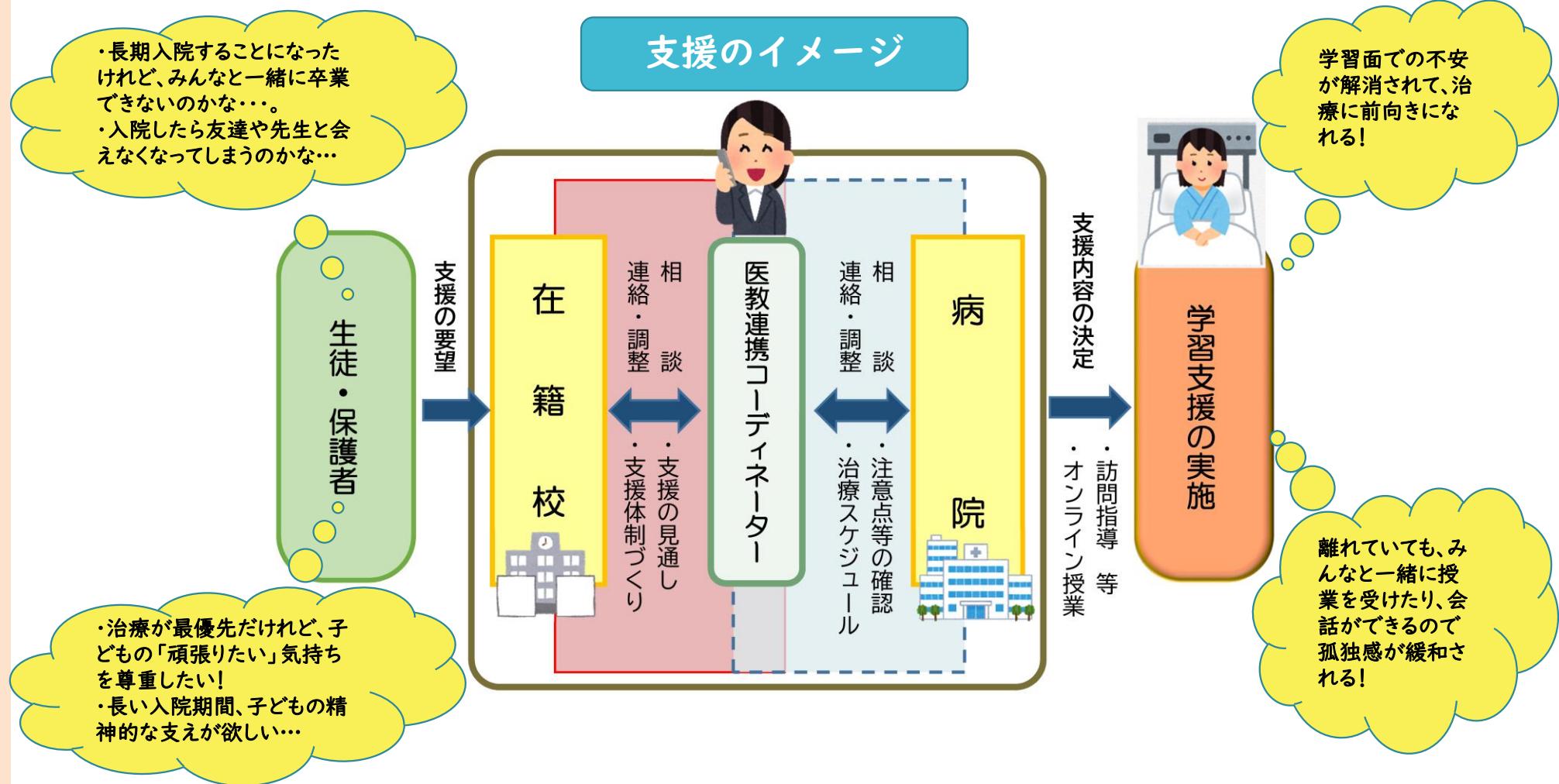
2. 事業の内容及び成果

事業概要

入院やその後の自宅療養のため、学校で授業を受けることができない高校生に対して、教育を途切れなく受けることができるよう、医教連携コーディネーターを中心に、学校と病院、教育委員会が連携を図りながら、ICT等を活用して学習支援を行う。

令和5年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版) 宮城県教育委員会

2. 事業の内容及び成果



令和5年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
 (病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
 事業成果報告書(概要版) 宮城県教育委員会

2. 事業の内容及び成果

R5 支援の事例

事例No.	学校 (学年)	病院 (入院科)	入院期間等	主な支援内容	通信環境 使用機器
①	県立高校 3年	東北大学病院 小児科	入院は断続的 自宅療養を含めれば、約 22カ月	同時双方向型の授業（病室・自宅・別室） ※感染症対策のため、復学後も当初は別室登校。一部、教室での授業に出席。出席認定、卒業見込み	病院、自宅及び学校 のWi-Fi iPad、kubi
②	県立高校 2年	東北大学病院 総合診療科	入院は短期 自宅療養6カ月	同時双方向型の授業（自宅）出席認定	病院及び自宅の Wi-Fi iPad、kubi
③	県立高校 2年	石巻赤十字病院 整形外科	2週間その後自宅療養	同時双方向型の授業及びオンデマンド型の授業（病室・自宅）出席認定	Wi-Fi ルーター貸出 iPad、kubi
④	県立高校 3年	東北整形外科 整形外科	3週間	同時双方向型の授業（病室） 出席認定	Wi-Fi ルーター貸出 iPad
⑤	県立高校 1年	東北大学病院 消化器内科	3週間その後自宅療養 1 カ月	同時双方向型の授業及びオンデマンド型の授業（病室・自宅）出席認定	病院及び自宅の Wi-Fi iPad、kubi
⑥	県立高校 3年	東北医科薬科大学病院 血液リウマチ科	2週間、その後1カ月ご とに1週間から10日程 度の入院治療	同時双方向型の授業（病室） 出席認定	Wi-Fi ルーター貸出 iPad
⑦	県立高校 3年	東北整形外科 整形外科	3週間	同時双方向型の授業（病室） 出席認定	Wi-Fi ルーター貸出 iPad
⑧	県立高校 2年	東北大学病院 血液内科	3週間、その後現在に至 るまで自宅療養	同時双方向型の授業（病室・自宅） 出席認定	病院及び自宅の Wi-Fi iPad、kubi
⑨	県立高校 3年	東北大学病院 小児科	1カ月、その後現在に至 るまで自宅療養	同時双方向型の授業（病室・自宅） 出席認定	病院及び自宅の Wi-Fi iPad、kubi
⑩	県立高校 2年	仙台赤十字病院 整形外科	1カ月	同時双方向型の授業（病室） 出席認定	Wi-Fi ルーター貸出 Chromebook、kubi
⑪	県立高校 3年	仙台整形外科 整形外科	3週間	同時双方向型の授業（病室） 出席認定	Wi-Fi ルーター貸出 iPad

令和5年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版) 宮城県教育委員会

2. 事業の内容及び成果

実施後アンケートより

生徒より



入院中は今までの日常から離脱した感じがして、元の日常に戻れるか不安になるときもあったけれど、その中で学校の授業に参加し続けられることは心の支えになった。また、高校3年生で進路に関する悩みが多い時期だったが、いつでも先生方に相談できる環境が整備されていたため、気持ちを安定させて治療に集中することができた。

学習支援を受けることができ、高校生活を継続できていることをうれしく思います。同時に双方向やオンデマンドで支援してもらったおかげで、学校生活を再開してからも特に困った様子は見られません。入院中もプリントや資料を印刷することもできたので助かりました。（東北大学病院の学習スペース、AYAルームを利用。）

保護者より



学校より

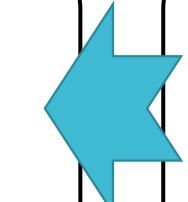


何よりもまず、生徒及び保護者の不安感が軽減され、治療に専念できたという点が大きかった。入院直後は本人が学習面の心配をしているとの話があったが、周囲のサポートもあり、スムーズに事業を活用できたことで、生徒の精神面での負担軽減になったと感じる。また、本来、入院した生徒については各教科担当が授業とは別に学習支援を行わなければならないが、本事業では生徒が遠隔で授業を受けることができるため、教科担当の教員は教材をGoogle Classroom等で生徒に送付すればよく、教員の業務的な負担軽減という点でも非常に有用であった。

令和5年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版) 宮城県教育委員会

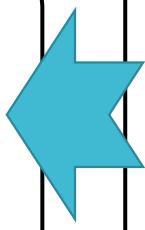
3. 今後の課題

①学校現場、医療機関によって、事業の認知度に偏りがあり、支援が十分でないケースが予想される。



- ・周知用リーフレット送付による広報活動
- ・Google Classroomに医教連携コーディネーター作成のスライド資料を掲載（制度説明や事例など）
- ・セミナー開催（令和5年度はオンデマンドの形で実施）

②協働的な学びや対話的な学びについても、事例は蓄積されてきているが、専門学科の実技・実習については遠隔による支援の方法に課題がある。



- ・専門学科での支援事例を収集し、可能な支援の方向性を検討
- ・これまでの蓄積から、遠隔授業で受講可能な部分と、登校が可能なときに行う実技等の補充との両輪で、学習を進める可能性を検討

本事業は、文部科学省の委託を受け、実施したものです。

報告書の詳細は、下記URLからご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/r05/1422284_00001.htm

